

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.9.25 No.116 連絡先 FAX 042-555-1911



## さようなら原発集會に6万人 原発再開は「住民への敵対」と鎌田慧さん



9月19日、明治公園で、大江健三郎さんら著名9氏が呼びかけた「さようなら原発集會」が開催されました。10数名で「10.15横田集會」のチラシ配付しました。千駄ヶ谷駅方面からの人・人・人の波、そして素晴らしい集會でした。(発言は下記で、[http://www.youtube.com/watch?v=k5Q5cRWpQaU&feature=player\\_embedded](http://www.youtube.com/watch?v=k5Q5cRWpQaU&feature=player_embedded)と<http://www.ourplanet-tv.org/?q=node%2F1231>)

## 東日本大震災、そして東電福島第1原発事故から6ヶ月が過ぎました

警察庁まとめ(9月21日)による震災人的被害は、死者15,799人、行方不明4,041人です。死者・行方不明合わせて2万人を超えて発表された時期がありましたが、19,840人です。多大な犠牲者です。ご冥福をお祈りします。外務省によると9月時点で計163の国・地域及び計43の機関が支援意図を表明しています。



### 宮城・仙台 荒浜の側溝に稲穂が

「荒浜の側溝に稲穂が育っていました。(8月)20日の灯籠流しに行ったとき、見つけました。すごい生命力!」。9月3日にアップされた福島かずえさんのブログの写真と添えられた言葉です。(写真提供:福島かずえさん)

3月11日の大津波は、ここ仙台市若林区荒浜を飲み込みました。でも、稲穂が側溝に育っている。希望を感じます。

9月23日、羽村市内で「アンダンテ ～稲の旋律～」の上映会がありました。食と農と大地、そして人間再生の物語でした。画面いっぱい広がる稲穂が主人公を元気づけました。被災地の農業や漁業などが一日も早く復興することを、願わずにはられません。

## 福生市9月定例議会の一般質問(インターネット中継)で分かったことなど

- 航空自衛隊は、航空総隊、航空支援集団、航空教育集団、航空開発実験集団、補給本部等で組織され、人員は約48,000人。航空総隊は52%の約25,000人。
- 航空総隊は、7月付けで新たに副司令官が配置された。

(右は航空総隊司令官のエンブレム。下の花3つをHQにかえると航空総隊司令部のエンブレムになります。それは、横田基地の航空総隊司令部庁舎棟に、描かれませんでした。) ● 航空自衛隊員の移転状況については現在70人。年度末までに800人、は変わらない。

- 航空総隊庁舎棟は完成している。現在、備品等の搬入・設置中である。
- 第5ゲートの工事用フェンスは、9月24日に前面撤去予定。ゲートの共用開始日は未定。
- 第5ゲート前の16号をわたる横断歩道は2つあるが、工事完了後は拝島駅側は撤去される。
- 運動施設は、来年2月まで工期が延長される。通信線路整備工事も来年6月に工事延長。



## 日本侵略を想定した 日米共同演習「ヤマサクラ61」のシナリオ判明（2）

東京占領をめざす部隊は新潟から、大阪占領を目指す部隊は金沢と鳥取県米子市から上陸すると想定した「ヤマサクラ 61」の「作戦命令 001」などの資料が、米国防総省と外部の機関、個人との間で情報交換・共有を目的にした情報ネットワーク「APAN」で公表されました。

それによると、中国を想起させる国が、日本からの米軍の撤退を要求し、東アジア連合に日本を強制的に参加させようと軍事行動を起こすというもの。連合軍の 5 個師団が、西日本の分離・支配と大阪占領をめざし金沢市と鳥取県米子市に上陸を開始。侵攻阻止の防御戦闘を実施する陸自中部方面隊を米軍が支援し、“侵略軍”を打破する内容です。（写真：公表された資料より）



「ヤマサクラ 61」の全作戦を指揮する統合任務部隊司令部は、在韓米軍第 8 陸軍司令部、初めてです。その指揮下に入るのは▽地上部隊司令部＝太平洋陸軍（ハワイ）・第 1 軍団前方司令部（キャンプ座間）▽航空部隊司令部＝第 13 空軍司令部（ハワイ）▽海上部隊司令部＝第 7 艦隊（横須賀）。

**ヤマサクラ演習** 米陸軍と陸上自衛隊のコンピューターネットワークとシミュレーションを使用した共同図上演習。1982 年に始まり偶数回は米国内での参謀演習・計画策定会議。奇数回が日本での本演習です。

### 横田基地所属のC130輸送機 沖縄・嘉手納基地着陸時に燃料漏れか

9月22日の琉球新報は、「21日午後0時53分ごろ、米軍横田基所属のC130輸送機が、右主翼先端部分から燃料とみられる液体を噴出しながら嘉手納基地に着陸。漏れ出た液体の種類や量、原因などについては不明。米軍は琉球新報の取材に対して燃料の流出を否定した上で「何ら問題は報告されていない」と回答。沖縄防衛局にも同様に回答した。」と報道しました。

C130は南側滑走路に着陸。駐機場場に移動する際も液体は漏れ出たままでしたが、緊急車両の出勤や回収作業の様子などは確認されなかったそうです。

嘉手納基地では8月、F15戦闘機が着陸中に燃料漏れを起こしたばかりです。琉球新報は、「米空軍嘉手納基地所属のF15戦闘機が16日午後1時44分ごろ、右主翼先端部分から燃料とみられる液体を噴出しながら滑走路に緊急着陸した。漏れ出た液体の種類や量、原因は不明。同日、沖縄防衛局が事実関係を米軍に照会したが、回答はなかった。緊急着陸によるほかの機体への影響はなかった。嘉手納町基地渉外課によると、同様なケースはこれまで確認されていない。液体は、着陸する際に翼から霧状に噴出し、着陸後も液体は漏れ出ている、滑走路に待機していた消防隊が機体を確認した。機体は午後2時25分ごろにけん引車で駐機場まで運ばれた。」などと報道。當山宏嘉手納町長は「絶対にあってはならない事故だ。ここ半年間に嘉手納基地では頻りに事故が起こっている。米側の安全管理はきちんとなされているか疑問だ。早急に原因を究明し、公表してほしい」と話しました。嘉手納町議会は25日、臨時議会を開き、F15の撤去や再発防止、安全管理の徹底などを求める抗議決議・意見書を全会一致で可決しました。

C130の件についても、嘉手納町議会基地対策特別委員会は委員会を開き、9月定例会最終日の29日に原因究明や再発防止などを求める抗議決議・意見書案を提案することを決めました。